

2017年度前期

聴講生  
科目等履修生  
募集要項



プ ー ル 学 院 大 学  
プール学院大学短期大学部



### ◆出願資格

高等学校を卒業された方、またはそれと同等以上の学力があると認められる方。ただし、プール学院大学短期大学部の科目については、女性に限ります(大学との共通科目を除く)。

### ◆開講期間

2017年4月7日(金)～2017年7月28日(金)

※上記期間中、各授業は15回実施します。

### ◆時間割

	授業時間
第1時限	9:00～10:30
チャペルタイム	10:40～10:55
第2時限	11:00～12:30
第3時限	13:20～14:50
第4時限	15:00～16:30
第5時限	16:40～18:10

### ◆試験期間

2017年7月31日(月)～2017年8月4日(金) ※8月5日(土) 期末試験予備日

※聴講生は期末試験を受けることはできません。

※期末試験のスケジュールは、7月以降に学内にて発表いたします。授業が休講になった時は、補講が行われますので掲示板等を確認してください。

### ◆受講料

聴講生(単位修得なし) 1科目 7,500円

科目等履修生(単位修得あり) 1科目(2単位) 20,000円

※原則として、既納の受講料は返還できませんのでご了承下さい。ただし、本科生の受講者がなく閉講になった場合のみ返金いたします。

### ◆受講科目

受講科目は、大学、短大それぞれに1学期間で6科目12単位を上限とします。また、科目等履修生は既に単位修得している科目を再履修することはできません。(聴講生は、同一科目を再受講することができます。)

◆申込手続き

日付	手続き	注意事項
3月6日(月) 17時必着	出願書類の提出	提出期限までに全て揃えて提出してください。書類に不備がある場合、受け付けできませんのでご注意ください。 【提出書類】 1. 聴講生・科目等履修生願及び受講理由書 2. 経歴書 ※2016年度前期、後期に受講された方は不要です。 3. 写真1枚：縦4cm×横3cm。経歴書に貼付してください。 4. 健康診断書（科目等履修生のみ） 胸部レントゲン、内科診察、血圧、尿検査の検査項目を満たし、かつ、開講初日から遡って3ヶ月以内（2017年1月7日以降発行）の受診結果を記したもの。様式自由。 （2016年度後期に健康診断書を提出された方は、提出の必要はありません。） ※プール学院大学とプール学院大学短期大学部の科目を同時期に受講希望される場合、1「聴講生・科目等履修生願及び受講理由書」以外の書類（2～4）の提出は1部で構いません。
3月10日(金) 頃発送予定	書類の受け取りと確認	書類審査終了後、以下のものをお送りしますので、資料に不足がないか確認してください。 【送付物】 1. 受講可否通知 2. 前期科目を受講するにあたっての注意事項 3. 受講科目表（個人別） 4. 教科書購入表 5. 受講科目のシラバス 6. 年間行事予定表 7. 時間割 8. 納付書 9. 学研賠、学研災パンフレット 10. 面接について（本学大学卒業生教職科目希望者のみ）  ※受講不可の場合は（1）のみ送付。 ※資料に不足がある場合は、大学教務課まで連絡してください。
3月24日(金) 振込期限	振込	履修に必要な経費を左記期限までに振り込んでください。手数料は振込人負担です。期日までに振込がない場合は、辞退として取り扱います。 【内訳】 ・受講料 ・学生教育研究災害傷害保険料（1,000円）※科目等履修生のみ。 ・学研災附帯賠償責任保険料（340円）※科目等履修生のみ。
4月5日(水)～ 7日(金) 予定	教科書の購入	教科書販売期間中に各自ご来校の上、お買い求め下さい。 販売場所は教務課で確認してください。
4月7日(金) 開講	授業への出席	履修された科目の最初の授業までに教務課で以下のものを受け取ってから授業に出席してください。 授業は、履修科目によって曜日時限が違いますのでご注意ください。  ・科目等履修生：科目等履修生証、履修の手引き、加入者のしおり ・聴講生：聴講生証

#### ◆学生教育研究災害傷害保険（対象：科目等履修生）

大学内外の教育研究活動中に起こった不慮の災害事故を補償するために、科目等履修生の方も本学の学生と同様に、学生教育研究災害傷害保険（学研災）に加えて、学研災付帯賠償責任保険（学研賠）に全員加入して頂きます。

保険料は学生教育研究災害傷害保険が1,000円、学研災付帯賠償責任保険が340円です。受講料と同時にお振り込み下さい。保険期間、保険の詳しい内容等については、別紙「学生教育研究災害傷害保険について」・「学研災付帯賠償責任保険について」をご覧ください。

※2016年度後期に学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険にご加入いただいた方は、2017年度前期まで有効ですので、今回新たにご加入いただく必要はありません。

※大学、短大両方の科目を申し込む場合でも、保険料は1件分で構いません。

#### ◆科目等履修生の単位修得（対象：科目等履修生）

単位修得を希望される場合、本科生と同様に期末試験（レポート試験を含む）を受験し、合格すると単位が修得できます。60点以上が合格点です。科目はすべて1科目2単位です。

なお、追試を受けることはできますが、再試を受けることはできません。

原則として、授業回数の3分の2以上の出席がないと不合格（0点）となります。

詳細は履修の手引きでご確認ください。

#### ◆学士の学位取得に関する修得単位の取り扱いについて

プール学院大学で修得した単位に関しては、単位を一定数修得した後、学位授与機構に申請し、審査に合格すれば、同機構より学士の学位が授与されます。

もちろん、学位を希望しない方でも単位修得を目標に学修することができます。プール学院大学短期大学部で修得した単位に関しては、学士の学位取得には適用できませんが、ご自身の学修の成果をはかるために、単位修得を目標に学修することができます。

#### ◆注意事項

1. 自動車での通学は認めていません。また、大学周辺の路上駐車を禁止します。公共交通機関をご利用の上、通学して下さい。原動機付自転車、または自転車での通学も可能ですが、ご利用の方は、事前に事務室の学生課まで届け出て下さい。
2. 原則として大学・短期大学部の科目の募集人数に制限はありません。
3. 科目名、担当者が同じであれば、学期や曜日・時限が違っていても同じ授業ですので、ご注意下さい。
4. 受講の途中で聴講生から科目等履修生、または科目等履修生から聴講生への変更はできません。
5. いったん受講のお申し込みをいただいた科目は、原則として途中で変更することはできません。
6. 聴講生・科目等履修生に対して受講許可を出した場合でも、本科生の受講者がいない授業については開講いたしません。予めご了承ください。
7. 聴講生・科目等履修生は本学の図書館・食堂の利用、チャペルタイムへの出席ができます。
8. 本学の行事または担当者によるやむを得ない事情等により、授業が休講になる場合がありますが、原則として個人宛には連絡いたしません。各自本学の掲示板、または本学ホームページでご確認下さい。
9. 休講の際、補講を行う場合があります。実際の補講日時等詳細については、各科目担当者より口頭あるいは掲示にて指示があるか、または教務用掲示板に補講の時間割が貼り出されますので、各自

でご確認下さい。

◆卒業生による教職関連科目・保育士関連科目の履修について

在学時に履修できなかった教職関連科目・保育士関連科目を履修して教員免許や保育士資格の取得を目指す方を対象に、科目等履修申請を受け付けます。

希望される方は、出願資格について教務課科目等履修生・聴講生担当までお問い合わせください。

担当者：

プール学院大学

プール学院大学短期大学部

教務課 聴講生・科目等履修生担当

T E L 072-292-7201

各 位

プール学院大学  
プール学院大学短期大学部  
学長 蔵田 實

### 自動車通学の禁止について

本学周辺には駐車スペースがありません。路上駐車は歩行者の通行の妨げになるばかりでなく、大型車、消防車や救急車などの緊急車両の通行の妨げとなり、近隣の方の生活に大きな支障を与えることとなります。

また、最近学生の事故が頻発し、けがや賠償のために学業を継続できなくなるという事態も生じています。

これらのことを踏まえ、本学では学生の自動車通学を禁止し、電車、バス等の交通機関で通学していただくこととしています。そのことを前提に、よりよい通学の便を確保するために、路線バスの利用に加えて、バス会社との個別契約による泉大津方面、富田林方面、和歌山方面の直通バスも運行しています。

したがって、この禁止事項を無視して自動車通学を行った学生には、厳重に注意をし、学長懲戒処分を含む厳しい措置を講じる所存です。

【2017年度前期 聴講生・科目等履修生開講科目一覧】

- ◆ 短大科目については、受講を女性に限らせていただきますが、※印のある科目は大学共通科目ですので、男性の方も受講することができます。
- ◆ 教科書の購入にあたっては、受講者に後日送付される教科書リストをご確認ください。
- ◆ 科目はすべて1科目2単位、授業はすべて週1回です。

「プール学院大学」聴講生・科目等履修生対象科目は次のとおりです。

No.	科目区分	学科	曜日	時限	授業科目	担当教員
1	大学	教養	火	1	アジア文化論	李 晩熙
2	大学	教養	火	2	日本語概説	関 綾子
3	大学	教養	火	3	日本語史	山田 勇人
4	大学	教養	水	1	イギリス文学概論	青木 由美子
5	大学	教養	水	1	人間理解論	白松 直樹
6	大学	教養	水	2	日本語文法論	安本 博司
7	大学	教養	水	3	観光実務研究	清野 進
8	大学	教養	水	4	福祉社会論	森定 玲子
9	大学	教養	水	5	社会調査法	森定 玲子
10	大学	教養	水	5	日本語学	山田 勇人
11	大学	教養	木	1	観光文化研究	為村 啓二
12	大学	教養	木	2	対人行動論	村上 祐介
13	大学	教養	木	3	現代企業研究	平井 拓己
14	大学	教養	木	3	情報システム論	白松 直樹
15	大学	教養	木	4	国際経済研究	川井 悟
16	大学	教養	金	1	マーケティング	山本 泰功
17	大学	教養	金	2	現代政治理解	李 晩熙
18	大学	教養	金	2	コーポレート・ファイナンス	山本 泰功
19	大学	教養	金	3	日本文化論	関 綾子
20	大学	教養	金	3	市民社会研究	中津 匡哉
21	大学	教養	金	3	経営学	山本 泰功
22	大学	教養	金	4	現代社会理解	中津 匡哉

「プール学院大学短期大学部」聴講生・科目等履修生対象科目は次のとおりです。

No.	科目区分	学科	曜日	時限	授業科目	担当教員
23	短大	秘書	月	3	観光と地理 ※	稲田 篤子
24	短大	秘書	火	2	日本の文学 ※	西尾 宣明
25	短大	秘書	火	3	ジェンダー論 ※	佐竹 純子
26	短大	秘書	木	1	国際理解	佐竹 純子
27	短大	秘書	金	3	生活と法律	小沼 秀史



「プール学院大学」聴講生・科目等履修生対象科目は次のとおりです。

No. 1

科目名	アジア文化論		
教員名	李 晩熙		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済と文化の関連性を説明し、これまでの理論の限界を説明する。</li> <li>・東アジアにおける「集団的な文化」の形成の背景を説明する。これに当たり、儒教文化や欧米からの侵略の経験は欠かせないものである。さらに、欧米の個人主義的な文化に基づき、東アジアと欧米の間の文化の違いを説明する。このような違いで、経済発展モデルの違いが出来上がったことも重視する。</li> <li>・東アジア諸国における経済発展モデルの形成に当たり、日本モデルが欠かせないので、これについて十分に説明し、さらに、日本モデルの弱点についても説明する。</li> </ul>		

No. 2

科目名	日本語概説		
教員名	関 綾子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	<p>日本語教師養成コースの基礎段階として、音声学を中心に学ぶ。調音器官や調音法、アクセント、イントネーションなどについての知識を得ることで、日本語の音声の特徴を明らかにするとともに、日本語と諸外国語との対照を行う。これらを通して、日本語を外国語として学ぶ学習者にとって、日本語の何が難しいのか、そして母語がどのように影響するのかを考察する。</p>		

No. 3

科目名	日本語史		
教員名	山田 勇人		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の変遷を分野別、時代別に概観しながら、日本語を多面的に考察する。</li> <li>・現代日本語がどのような問題を抱えているか、更にこれからどのように変化していくかを考える。</li> </ul>		

No. 4

科目名	イギリス文学概論		
教員名	青木 由美子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	<p>イギリス文学の歴史的流れをつかむ。作品の背景にある思想・文化に目を向け、小説・劇・詩など、作品の形態やその特徴についても学ぶ。イギリス文学全体を概観し、作品に表われたイギリス人の人間観、世界観の変遷をたどる。イギリス人の生き方を、異なる時代を生きた作家の作品と比較することによって、イギリス人を取り巻く社会と文化の変化を考える。映像資料なども参考にして、イギリス人にとっての理想の人間像や社会像について考察し、その特徴を探る。</p>		

## No. 5

科目名	人間理解論		
教員名	白松 直樹		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	人間とは何かという問いは古くからあり、また、人間の本質や特質についての探究は哲学から実証主義の領域まで、様々な学問においてなされてきた。しかし、グローバルゼーションのもとで多文化化が進展し、同時にまた、高度な科学技術の発展にもなう物質文化の恩恵に浴するようになった現代の社会において、人間とは何かを問うことは新たな意味を持ちつつある。そうした観点に立ち、この科目では、人間と多様な文化との関係や、人間と機械や技術との関係など、人とその周囲環境に注目し、人間について学際的に考察する。		

## No. 6

科目名	日本語文法論		
教員名	安本 博司		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	「ものごとの捉え方」と「ことば」の仕組みは密接に関係している。授業では例文を通して日本語の仕組みを学びつつ、日本人の世界の切り取り方について考える。		

## No. 7

科目名	観光実務研究		
教員名	清野 進		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	本講義では観光と係わり様々なビジネスを取り入れ、経営学的アプローチから観光現象を学ぶ。観光ビジネスの固有の特性を念頭に置きながら、観光ビジネスの新しい動向やその背後にある原理・原則について基礎的な講義を行う。		

## No. 8

科目名	福祉社会論		
教員名	森定 玲子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	私達は誰でも障害を持つことはあり得る。障害を持つと持つまいと、誰もが人間として「当たり前前の生活」を送りたいと願っている。障害を持つ人のそのような「当たり前前の願い」が福祉サービスの発達をもたらしてきた。この授業では、高齢者福祉サービスや障害福祉サービスの理念や施策を学ぶことによって、「当たり前前の生活」とは何か、それを可能とする福祉サービスのあり方とは何かを考察する。		

## No. 9

科目名	社会調査法		
教員名	森定 玲子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	社会調査には量的データを扱う量的調査と質的データを扱う質的調査の2種類ある。本授業は、量的調査を扱う。質問票を用いてデータを収集し、そのデータを統計的処理によって分析する質問調査法を取り上げる。実際に自分で質問票を作成し、データを収集し、コンピューターを使って分析し、調査報告書を作成する。質問調査法のプロセスを一通り体験することで質問調査法の技法を習得する。		

## No. 10

科目名	日本語学		
教員名	山田 勇人		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	日本語を一つの外国語として捉え、日本人だからこそ知らない日本語の仕組みを学ぶ。そして、その過程で現代日本語に関する基本的な知識、用語を学ぶとともに、日本語の諸問題を考えていく。日本語教師を目指し、日本語教育能力検定試験を受験しようと考えている学生は受講すること。		

## No. 11

科目名	観光文化研究		
教員名	為村 啓二		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	<p>マスツーリズム発祥の地イギリスの観光史と日本の観光史を概観し、未来の観光の発展について考察する。</p> <p>授業では特に、19世紀～20世紀にかけて活躍したイギリス湖水地方ゆかりのワーズワスの作品、同じく湖水地方を舞台に絵本を制作したビアトリクス・ポターの「ピーターラビットシリーズ」、世界中をめぐったレイディ・トラベラー、イザベラ・バードのアジア旅行記（日本、朝鮮、中国、マレーシア）および西牟田靖が日本の統治下にあったアジア太平洋各地の旅を記した『僕が見た「大日本帝国」』を取り上げる。</p> <p>これらの文献を読み進めて、欧米英語圏と、日本を中心とした東アジア諸国の観光文化を比較検討することで21世紀を極東の地で生きる私たちの道しるべとする。</p>		

## No. 12

科目名	対人行動論		
教員名	村上 祐介		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	私たちの社会的行動を広義の対人行動と捉え、その行動に対する他者からの影響過程や所属する集団や組織からの影響過程、また、それらの集団や組織、社会を構成するメンバー間の関係性などを中心に扱う。授業では、特に、個人と集団、あるいは個人と社会との相互作用に関して、具体的な事例を題材に考察する。比較的ゆっくりとしたペースで、わかりやすく説明するので、じっくりと取り組んでほしい。		

## No. 13

科目名	現代企業研究		
教員名	平井 拓己		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	本講義では、様々な企業活動をみる方法について学ぶ。また、現在の日本企業が直面する課題について特に国際的な視点を交えて考える。受講生は、講義をヒントにして、それぞれ興味のある業界、企業、テーマを選び、より深く調べ、考えることが求められる。そのために必要な資料、データの探し方についても解説する。講義では、できるだけ大阪・関西の中小企業などの実例を多く取り上げ、受講生に企業の活動を身近にとらえてもらう。		

## No. 14

科目名	情報システム論		
教員名	白松 直樹		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	我々が普段使用しているコンピュータシステムやネットワークシステムの仕組みについて方式や構造についての基本的知識について説明する。また、企業において業務を改善させるための、データ収集、分析についてその方法について紹介する。さらに、組織に大規模なソフトウェアシステムを構築する際の手順について説明するとともに、維持・管理するための基本知識についても説明する。		

## No. 15

科目名	国際経済研究		
教員名	川井 悟		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	本講義は、国際経済に関する基礎知識を習得するとともに、現在の国際経済の動向に対する理解を深めることを目的とする。グローバル化が進む国際経済を理解するために、まず、貿易、外国為替、国際金融などに関する基本的知識、理論、政策等を学ぶ。その上で、現在の主要な国際経済事象の動向に関して考察する。また、特に近年、経済発展が著しい東アジア地域の経済についても理解を深める。		

## No. 16

科目名	マーケティング		
教員名	山本 泰功		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	企業は、様々なマーケティング戦略を立案、実行し、自らの商品やサービスをマーケットに提供している。売れている商品と売れない商品の違いは何処にあるのか。売れる為に、企業はどのような工夫を行っているのか。そのような具体的ケーススタディを取り上げながら、マーケティングに関する基礎的な体系を学ぶこととする。		

## No. 17

科目名	現代政治理解		
教員名	李 晩熙		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治とは何か、なぜ必要なものであるかについて説明する。</li> <li>・政治現象の様々なことについて説明する。例：政治体制、選挙、政治機構、政府、国際関係など</li> <li>・日本や世界各国の政治形態について説明する。</li> <li>・学生も基本知識に基づき、政治現象について自主調査し、発表や討論をする。</li> <li>・政治現象に関連する時事問題を取り上げ、一緒に考え討論する。</li> </ul>		

## No. 18

科目名	コーポレート・ファイナンス		
教員名	山本 泰功		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	コーポレートファイナンスは、企業の成長・破綻に深く関与している。本授業では、その基本的な仕組みを理解することで、企業経営で最も大事な財務戦略を学んでいく事にする。特に、良い企業とは何かを判断する為に、様々な企業のケーススタディを用いながら、財務分析を行っていく。		

## No. 19

科目名	日本文化論		
教員名	関 綾子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	他言語と比較して、日本語に特徴的な諸現象を例にして、文化がことばに与える影響やことばが人間のものの見方に与える影響を学ぶ。「ことば」というコードを使って、「日本文化」を読み解く。		

## No. 20

科目名	市民社会研究		
教員名	中津 匡哉		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	現代社会において、科学的な情報がどのように扱われているかということを中心に、情報とコミュニティの関係について考える。現代社会では、科学的な情報について市民社会という視点から非専門家も主体的な態度をとることが重要だと言われているが、この授業ではこうした議論を批判的に再検討することで、コミュニティ内外での真理や価値について考える契機とする。		

## No. 21

科目名	経営学		
教員名	山本 泰功		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	経営学は、トップマネジメントが学び、企業経営の実践で生かされている。では、実際に、どのように生かされているのであろうか。本講座では、企業の成り立ちである組織構造から始まり、経営哲学、経営戦略等の基本を学ぶ。その後、ケーススタディを使いながら、特徴的な企業の経営スタイルを学んでいくことにする。		

## No. 22

科目名	現代社会理解		
教員名	中津 匡哉		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	文化、社会、政治、経済といった多角的な視点から、現代社会の諸相について理解できるようになることを目的とする。現代社会で生起するできごとを各論的に読み取るだけでなく、社会を俯瞰的にとらえるための基礎概念について概説する。		

「プール学院大学短期大学部」聴講生・科目等履修生対象科目は次のとおりです。

No. 23 ※大学共通科目のため、男性の方も受講可

科目名	観光と地理		
教員名	稲田 篤子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	この授業では、国内の地理的情報と国内観光の基礎知識を結びつけ、世界に稀有な日本の観光資源を地域ごとに取り上げ、自然・社会・文化などの特性を考える。同様に海外の地理的教養も養う。観光産業を地誌的観点から探ることによって、その将来的な意義を理解することを目的とする。2020年に開催される東京オリンピック、訪日外国人観光客2000万人を目指す政策に伴い、観光産業において求められる優秀な人材となる基礎知識の習得も目指している。		

No. 24 ※大学共通科目のため、男性の方も受講可

科目名	日本の文学		
教員名	西尾 宣明		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	1920年以降の小説作品を時代順に読解する。そして、そこに認められる日本文化の特質や感性について理解を深める。具体的には、大正モダニズム文芸、昭和の都市を描いた文芸、戦争時代を描いた文芸、昭和30年代の日本を描いた文芸、現代の若者を描いた文芸などである。 また、日本文化の伝統性を理解するために、短歌や詩の講義も行う。近代日本の歴史的展開を視野に、文芸に認められる思想性と感性を考察する。		

No. 25 ※大学共通科目のため、男性の方も受講可

科目名	ジェンダー論		
教員名	佐竹 純子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	現代日本の男女共同参画社会における「ジェンダー」をめぐる諸問題について考える。まず過去の文献を読み解き、女性解放思想（フェミニズム）の歴史をふりかえり、男女平等をめざす国際的な取り組みについて理解する。「ジェンダー」と他の社会的諸問題との関係を明らかにすることで、「ジェンダー」をめぐってこれまで日本で当然とされてきた考え方について批判的にみていく。		

No. 26

科目名	国際理解		
教員名	佐竹 純子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	世界を広域、あるいは特定の地域に注目して、文化、歴史、政治、経済、社会などの問題を扱い、国際理解を深める。とくに、日本社会が国際社会とどのように向き合い、国際問題にどのように対処すればよいか、また、どうすれば世界の人々が共存の道を歩むことができるかについて、歴史的な視点を大切にしながら、学習する。		

No. 27

科目名	生活と法律		
教員名	小沼 秀史		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
授業概要	日常における様々な活動に関する法律規則の基礎的な知識を幅広く得ることにより、それらを合理的に行う能力と態度を身につけ、法律的な考え方を養うための講義である。一般的常識として必要な概要について講義するとともに、いくつかの課題を与え、実際に体験してもらう。		